



要 株式会社要興業
平成30年3月期 決算説明会
平成30年5月30日

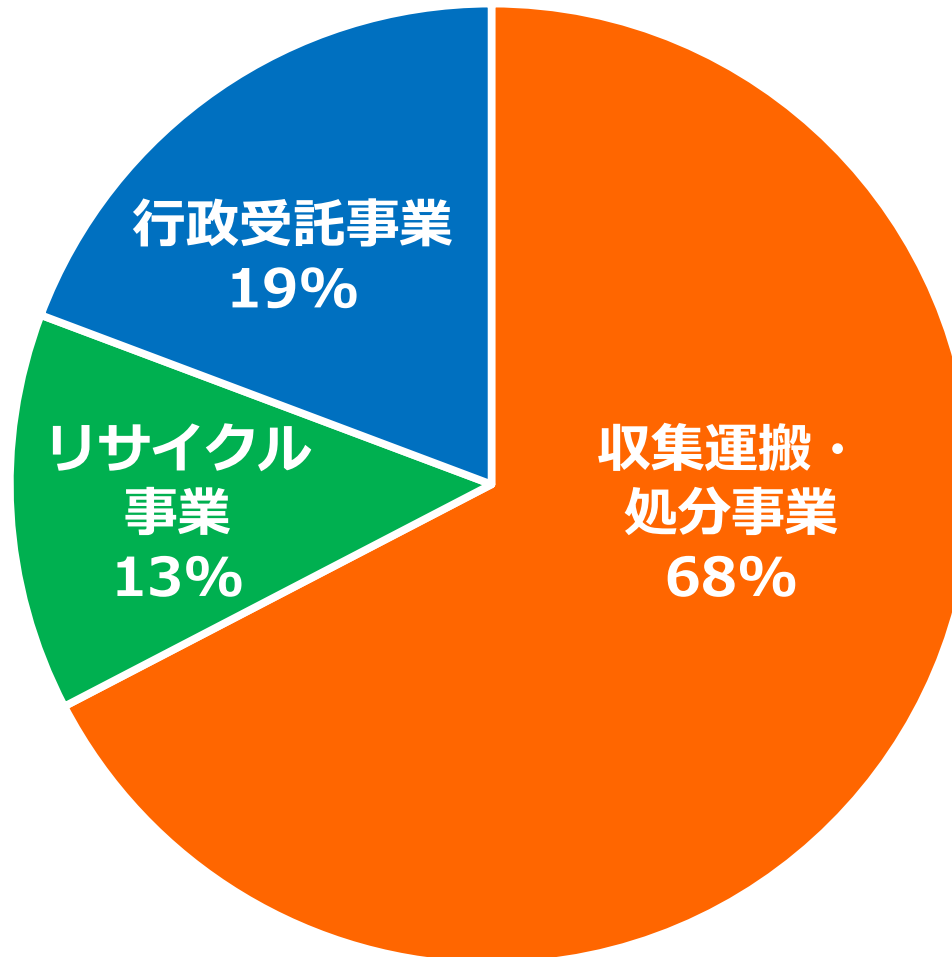
1.平成30年3月期 通期連結業績

2.平成31年3月期～平成33年3月期

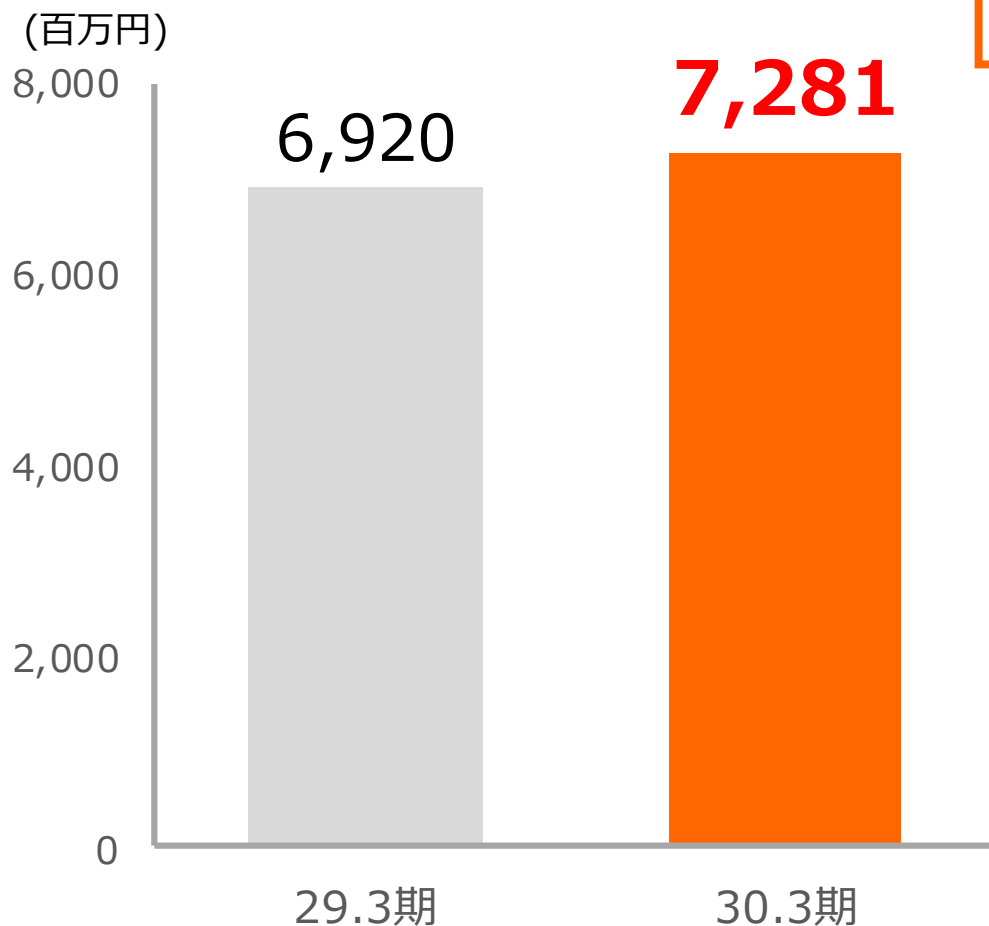
連結業績予想

平成30年3月期 通期連結業績

【事業区分別の売上高構成比】



【収集運搬・処分事業】



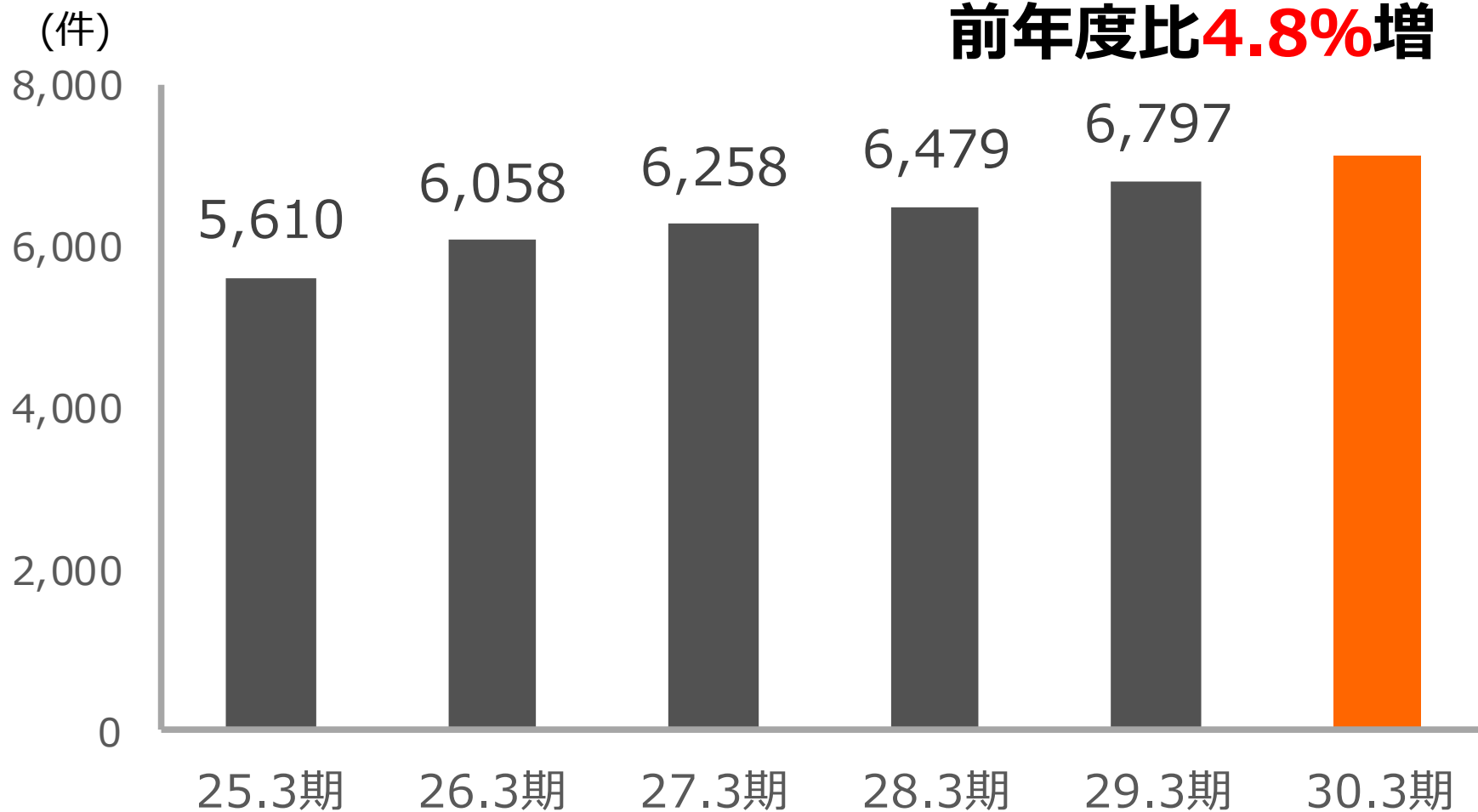
前年度比 **5.2%増**

【要因】

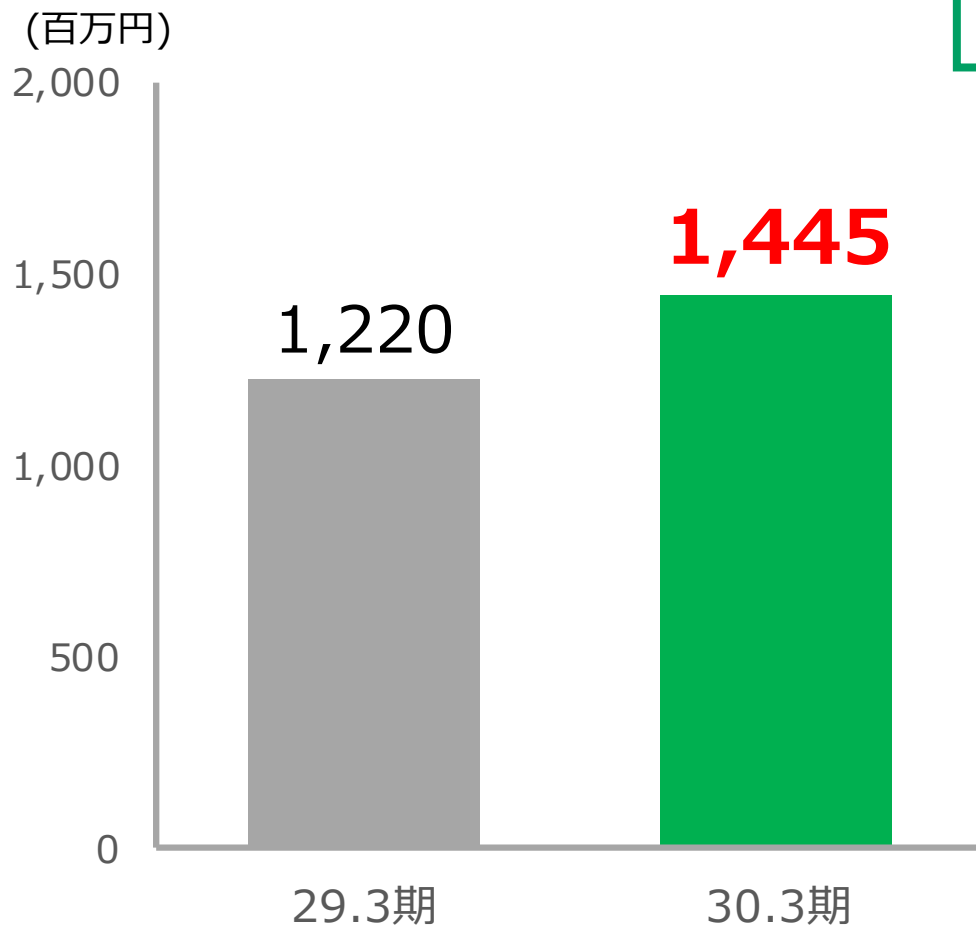
- 顧客数の増加
- 収集現場数の増加

【収集現場数の推移】

7,122現場
前年度比**4.8%増**



【リサイクル事業】



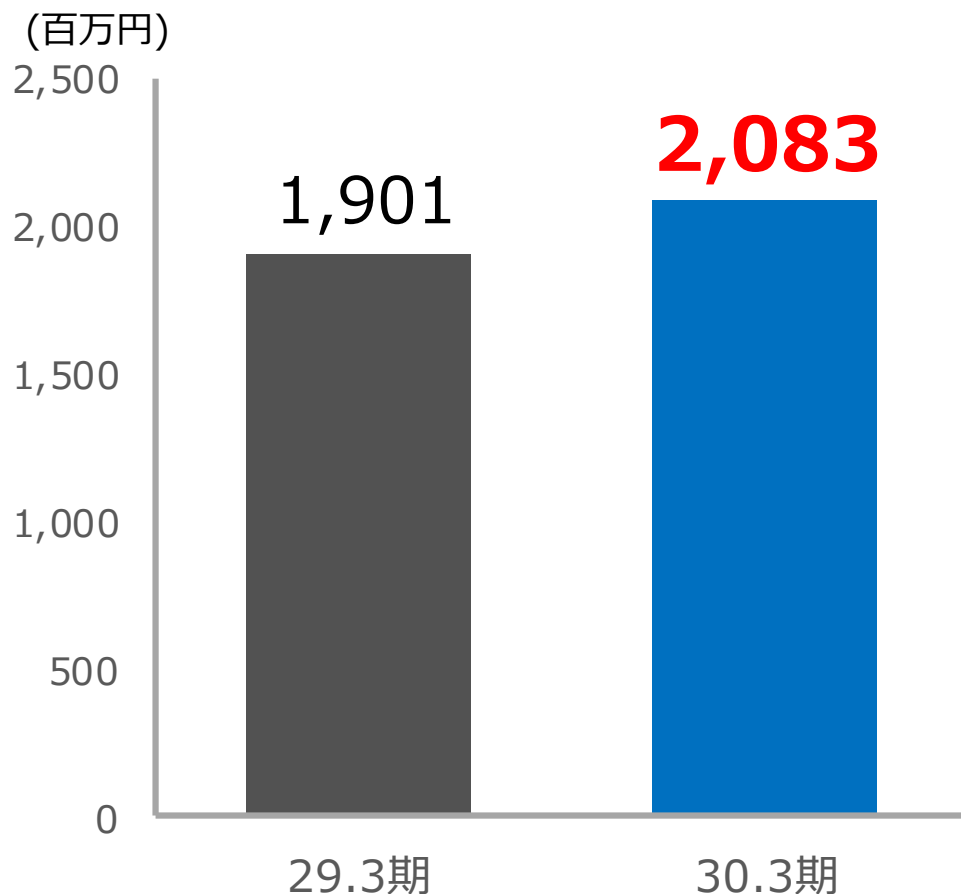
前年度比 **18.5%増**

【要因】

- 取扱量の増加
- 資源相場の上昇

【行政受託事業】

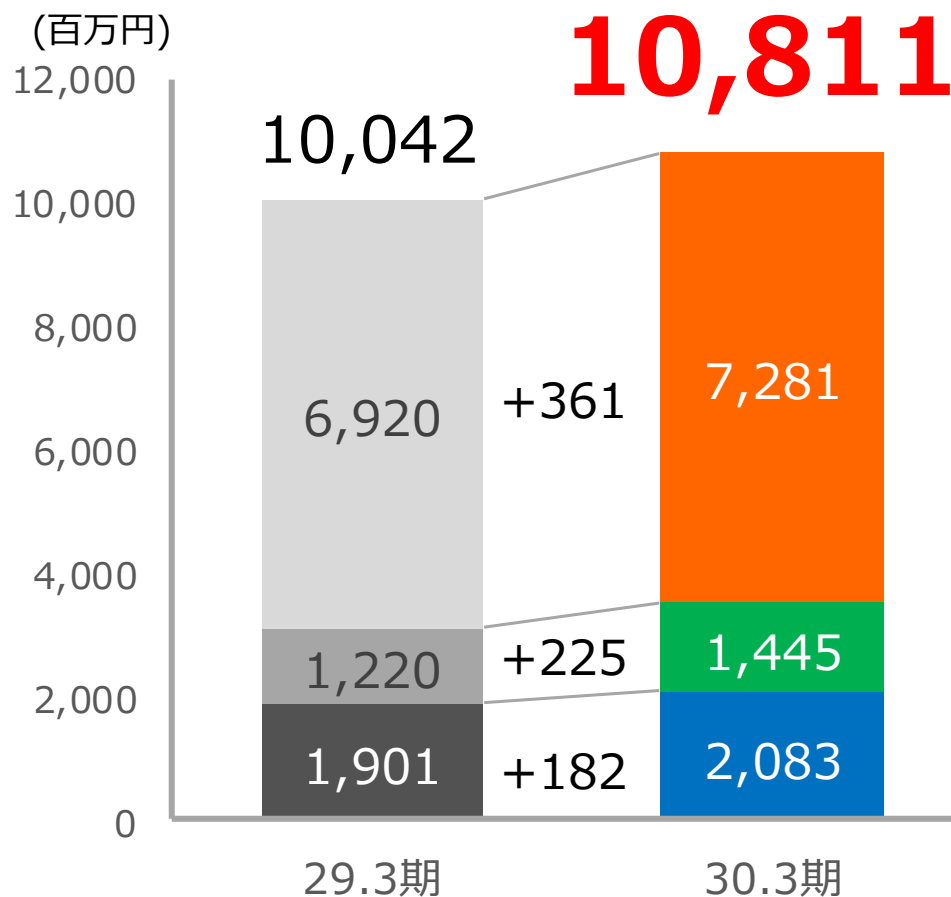
前年度比 **9.6%増**



【要因】

- 行政受託量の拡大
- リサイクルセンター拡充による処理量の増加

【事業区分別の売上高構成】



収集運搬・処分事業
前年度比 5.2%増
顧客数の増加

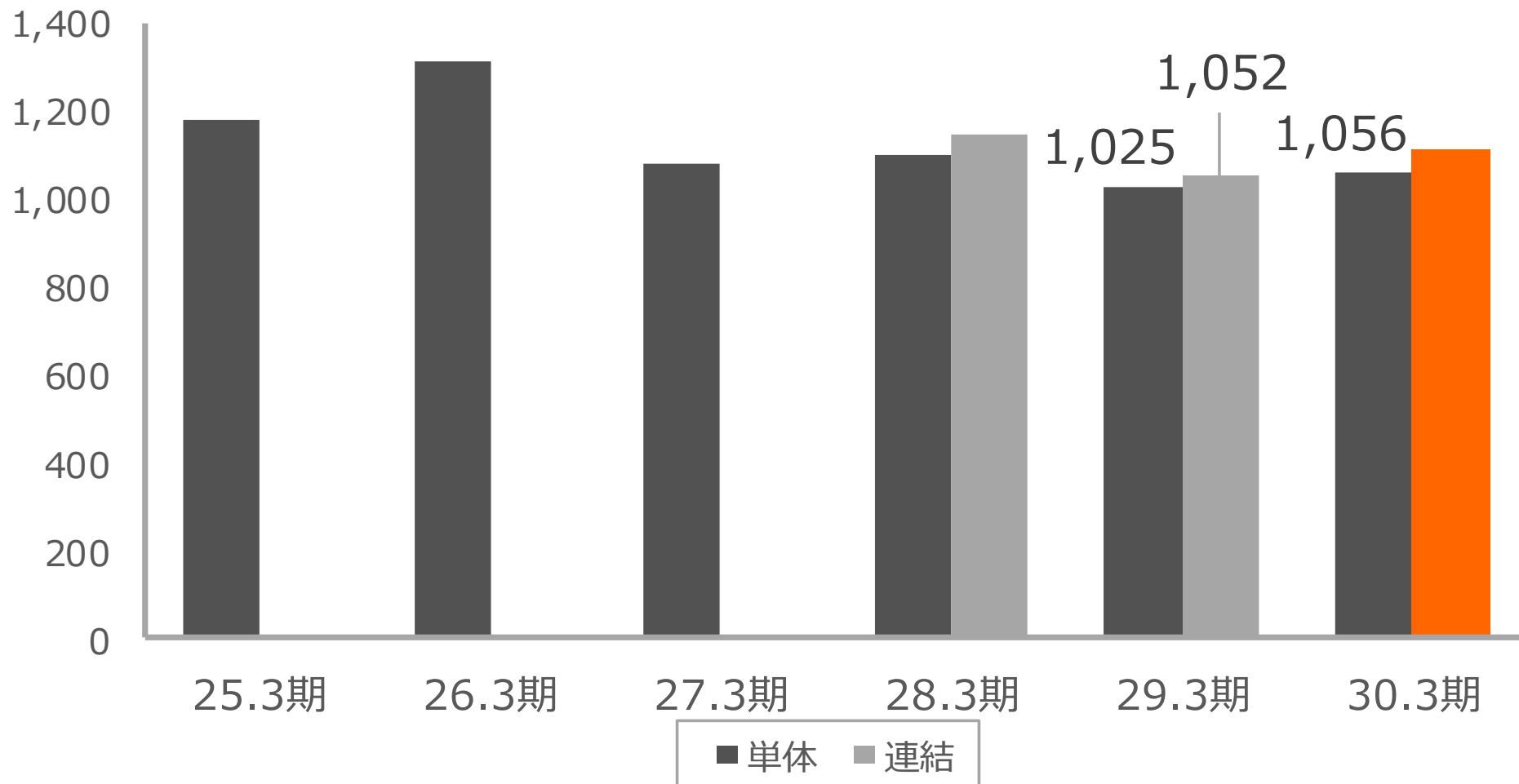
リサイクル事業
前年度比 18.5%増
平成29年上期の資源相場が好調

行政受託事業
前年度比 9.6%増
不燃ごみ資源化取引の拡充

【経常利益】

1,116百万円
前年度比**6.0%**増

(百万円)

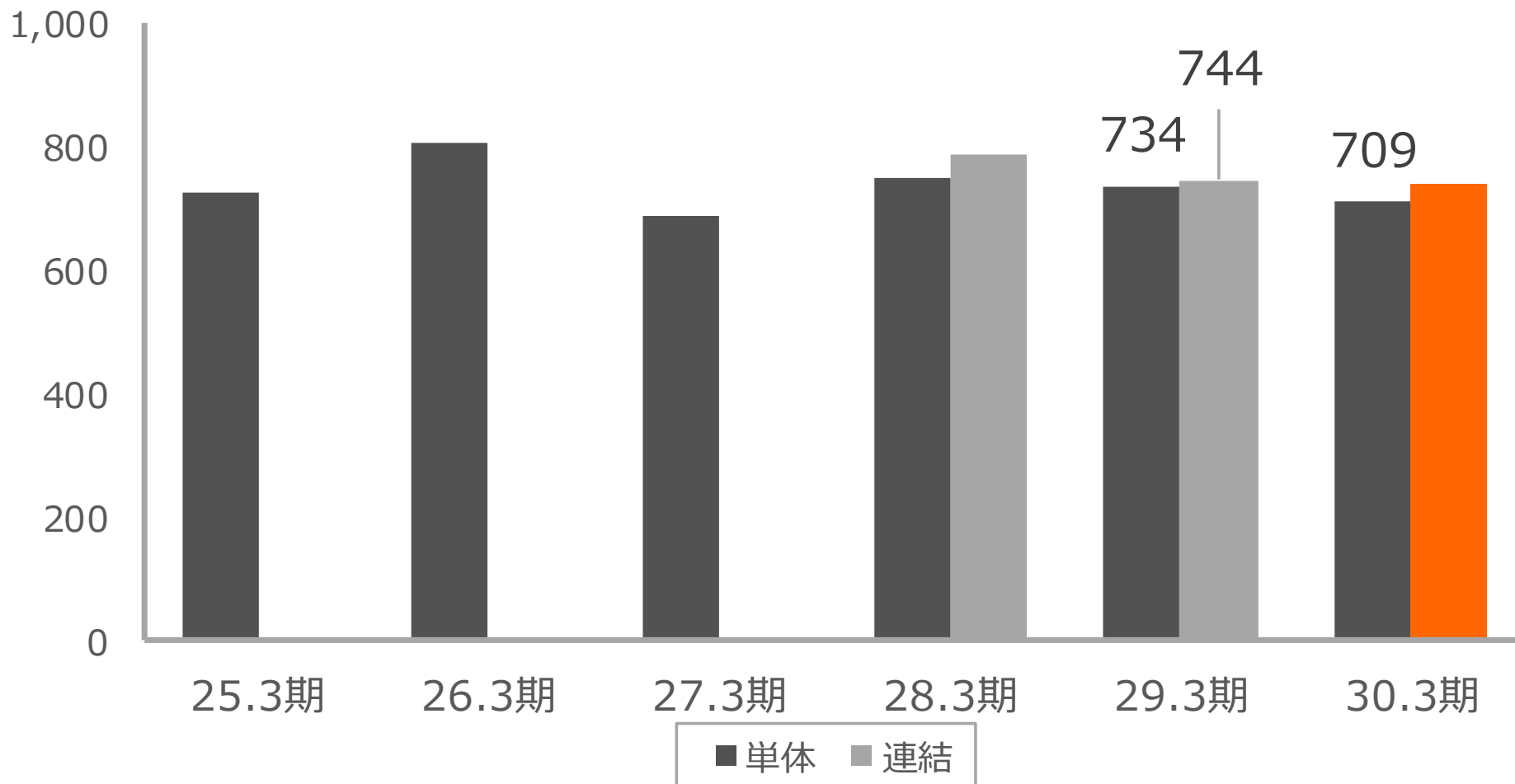


【親会社株主に帰属する当期純利益】

739百万円

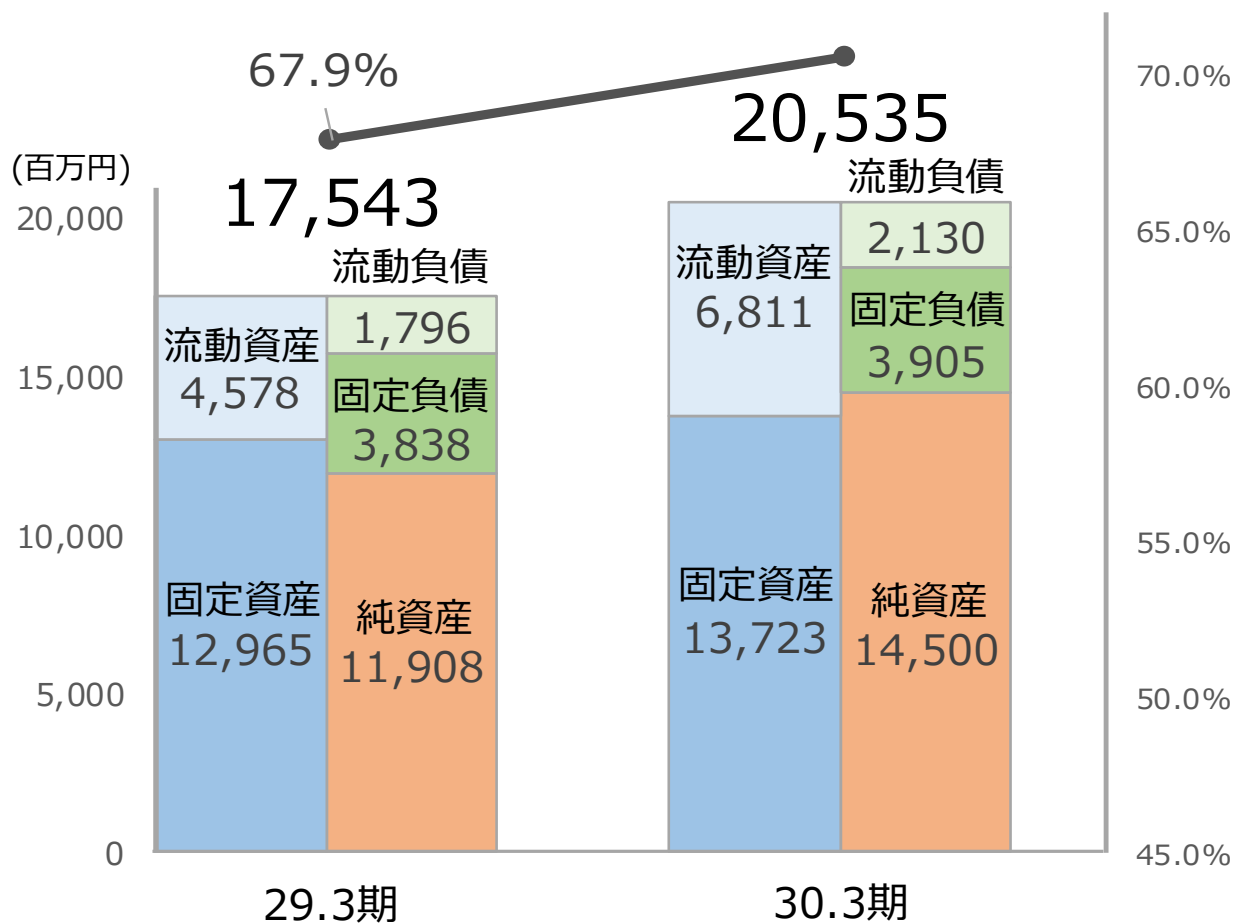
前年度比**0.7%**減

(百万円)

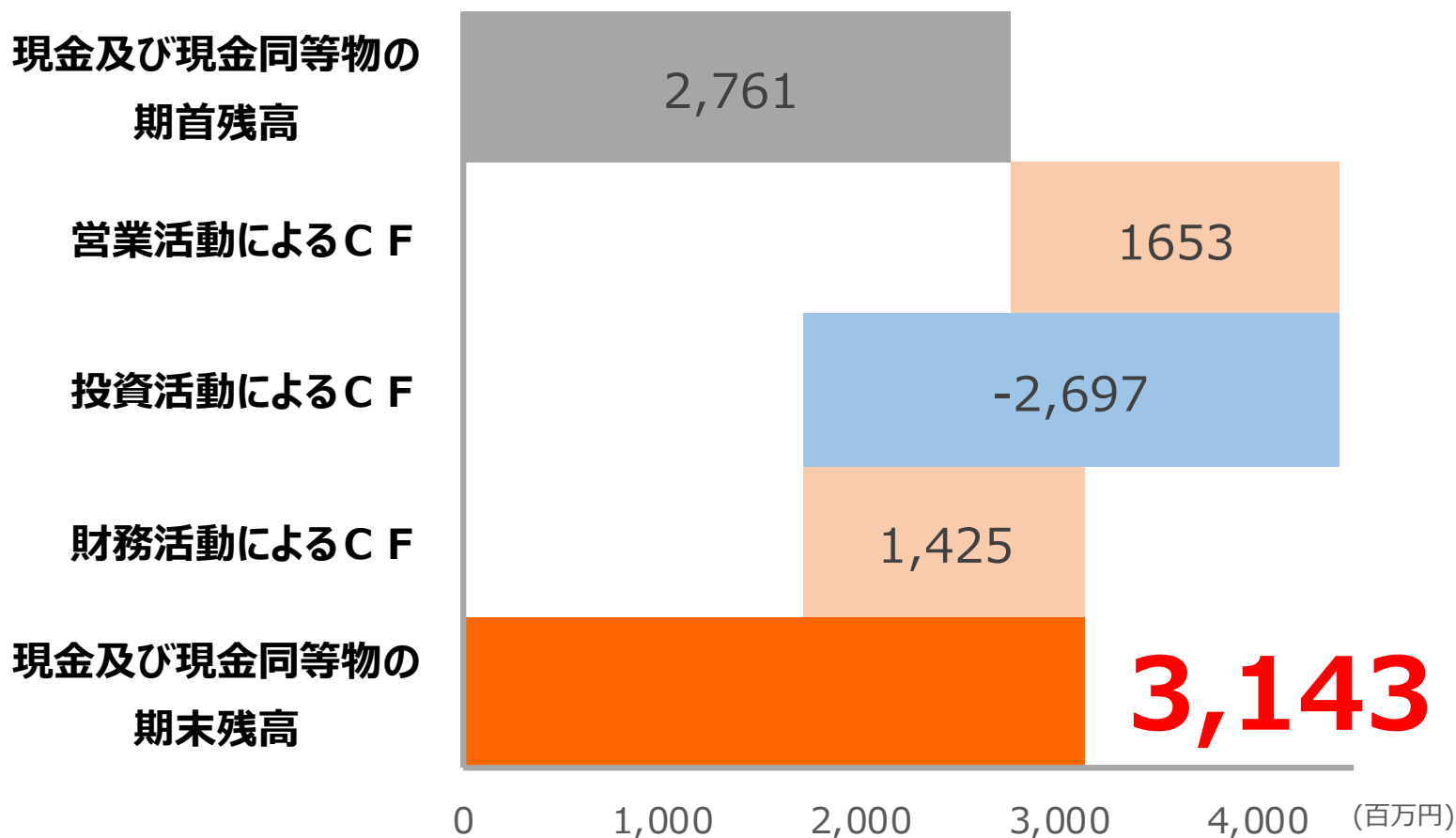


【貸借対照表】

自己資本比率 67.9% ⇒ 70.6%



【キャッシュフロー】



【株式会社アルフォとの協業化】

- ・ 平成29年6月に株式会社アルフォの株式を取得
- ・ 7月より、城南島第2飼料化センター稼働開始



平成30年3月期 トピックス



【板橋リサイクルセンターの稼働開始】

- ・平成29年10月より本格稼働を開始



【入谷リサイクルセンター近郊における土地購入】

- ・ 平成29年11月、足立区入谷に約830坪の土地を購入



平成30年3月期トピックス



【東京証券取引所市場第二部上場】

- ・平成29年12月25日、東証二部へ上場



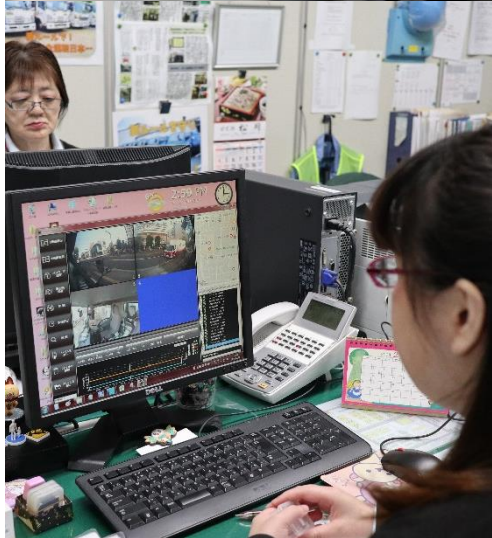
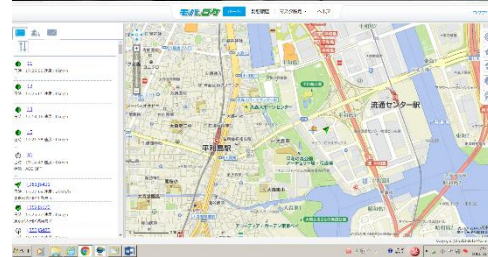
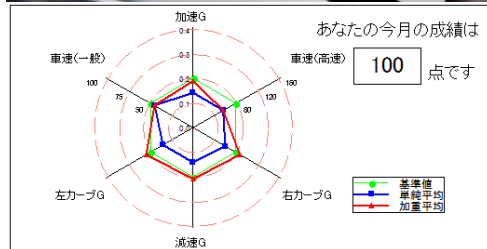
【交通安全への取り組み強化】

・安全運転日本一を目指し、取り組みを強化

全運搬車両へドラレコ・タコビットを搭載

無線・GPS装置

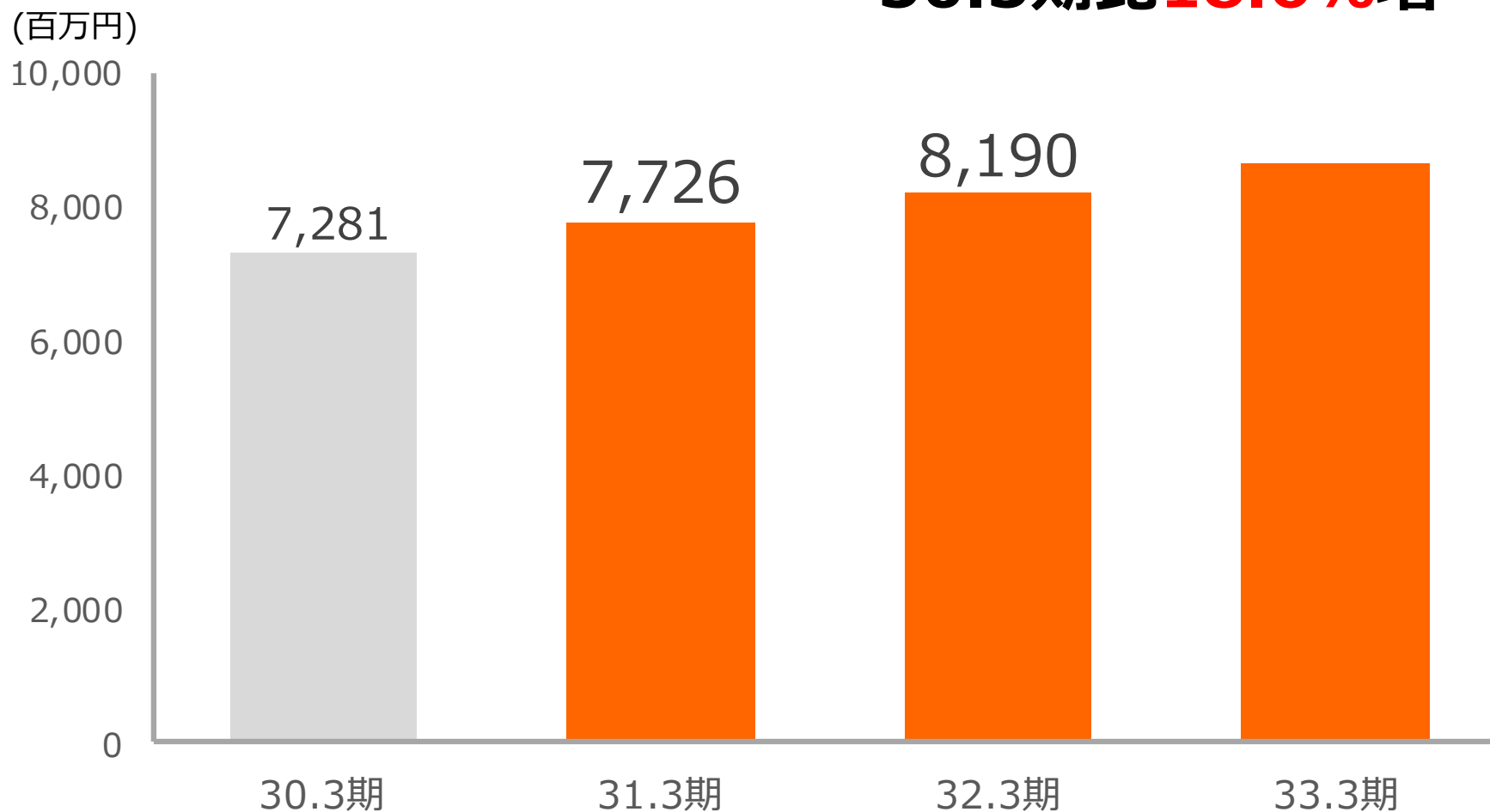
アルコールチェック



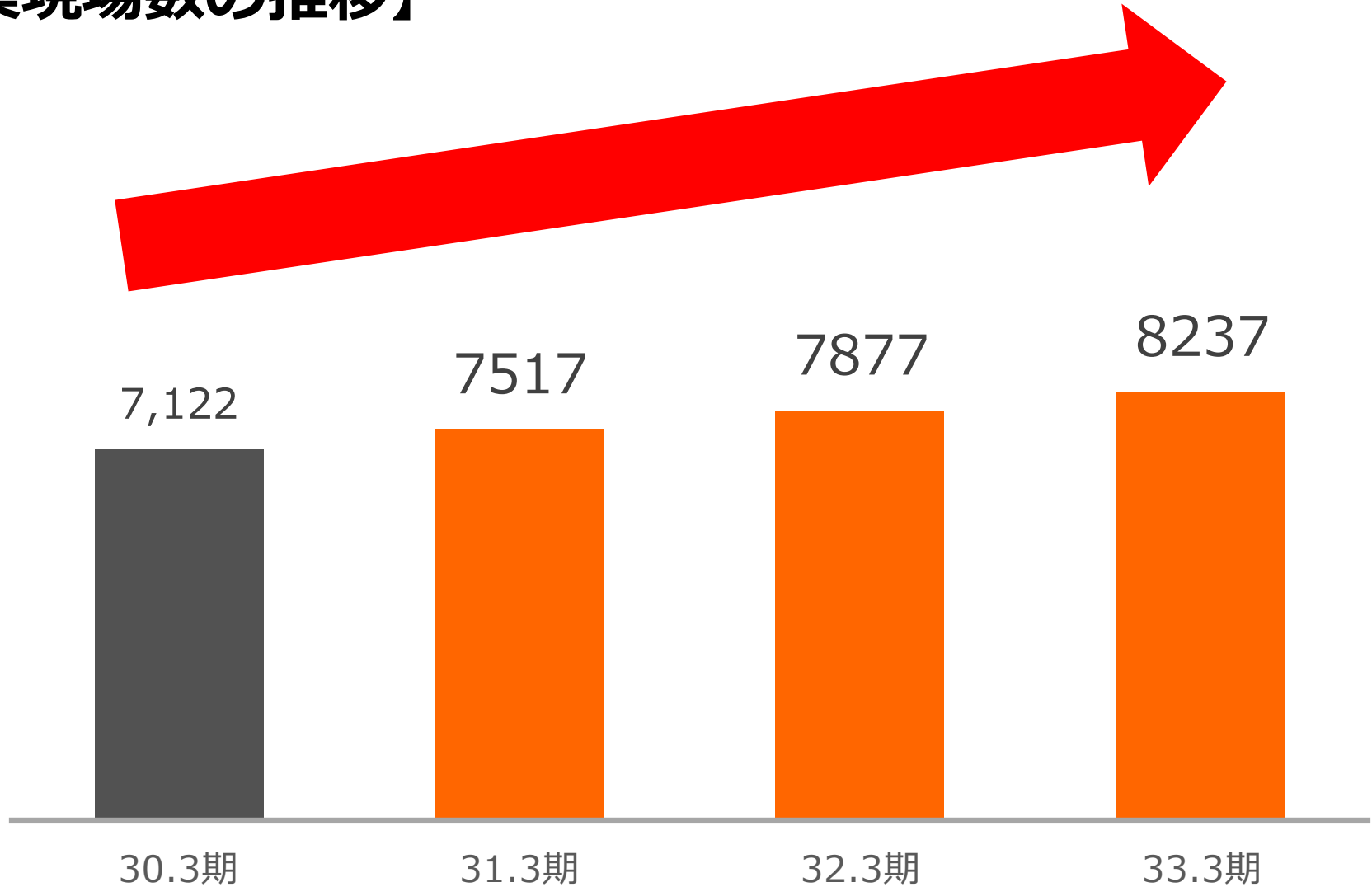
平成31年3月期 ～平成33年3月期 連結業績予想

【収集運搬・処分事業】

8,633百万円
30.3期比18.6%増



【収集現場数の推移】



連結業績予想 - 収集運搬・処分事業 -



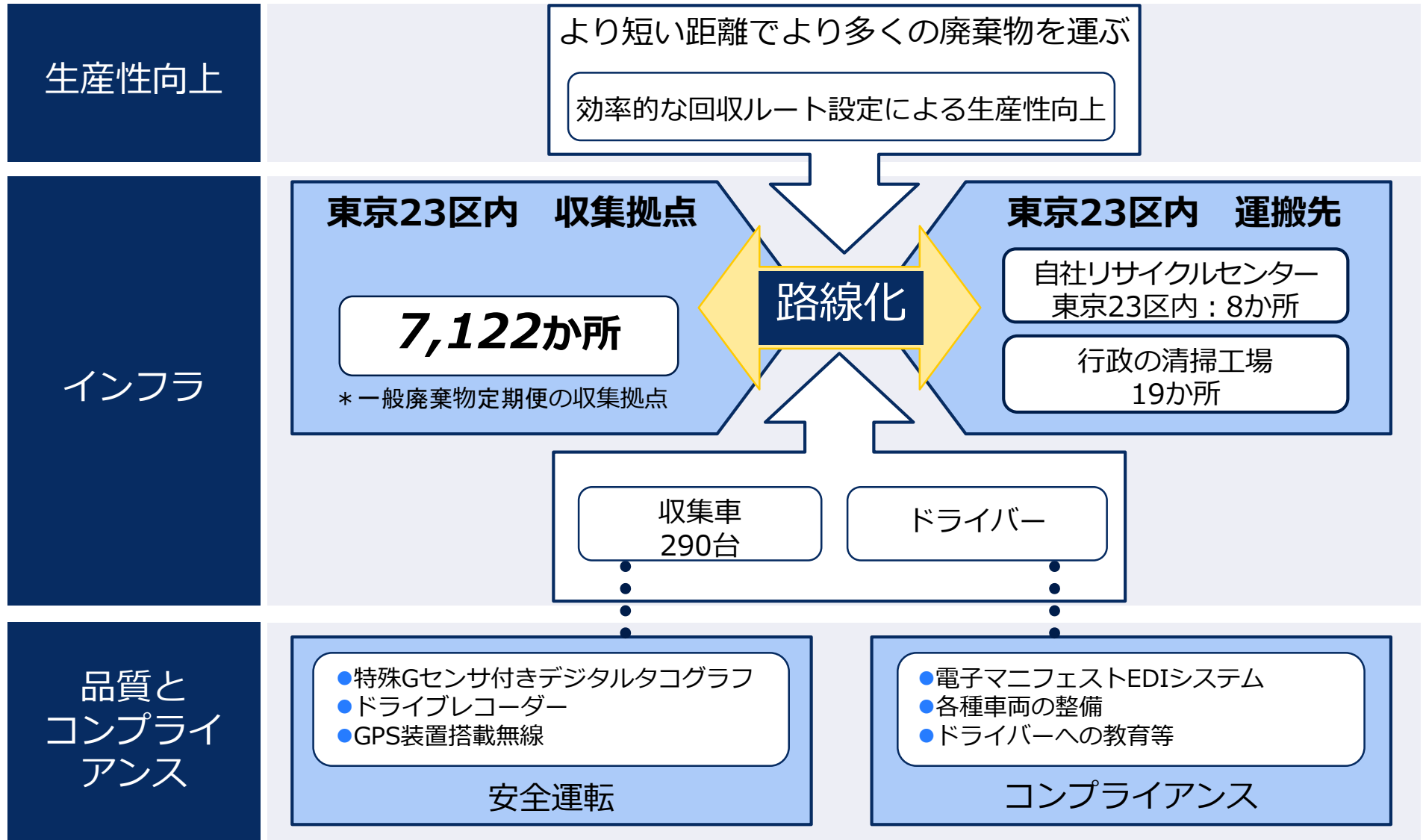
計13拠点 (本社、支社、リサイクルセンター、グループ会社、出資先の事業所)



連結業績予想 - 収集運搬・処分事業 -

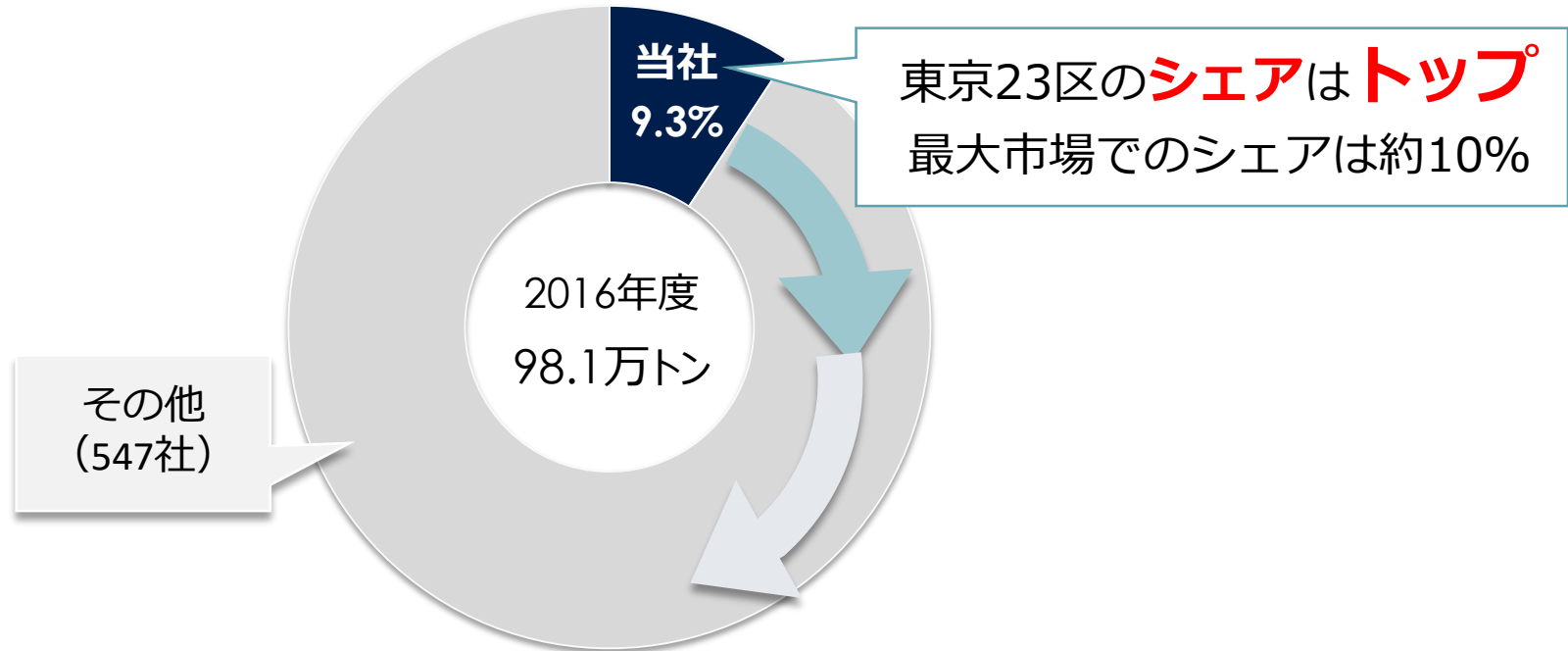


東京23区内の**路線化**により、効率的な収益基盤と圧倒的な競争優位性を確立



事業系一般廃棄物の収集運搬事業で**業界最大手**だが、シェアは10%未満。

- 東京23区産業廃棄物及び一般廃棄物持ち込み量



出所) 東京二十三区清掃一部事務組合を基に当社作成

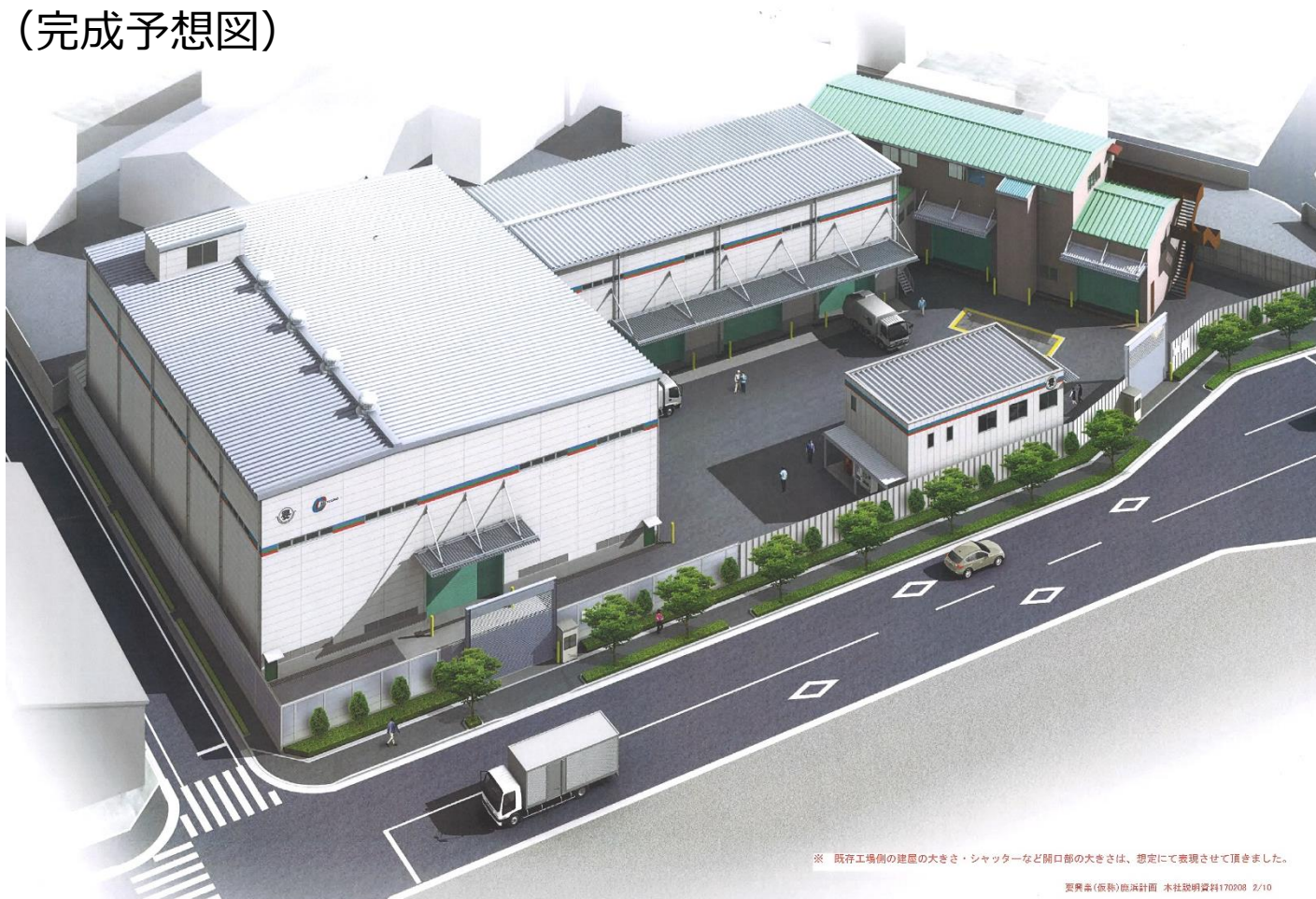
リサイクルセンターで自主的に資源化している廃棄物を持込量に換算して算出

- 2016年度の東京23区産業廃棄物及び一般廃棄物持込量 : 96.6万トン
- 当社の自社処理量 : 1.5万トン
- 推定23区持込量 : 98.1万トン
- 当社持込量+自社処理量 : 9.1万トン

【粗大ごみ破碎処理施設の建設（鹿浜工場）】

- ・ 23区内最大級の粗大ごみ破碎施設を建設予定。

(完成予想図)

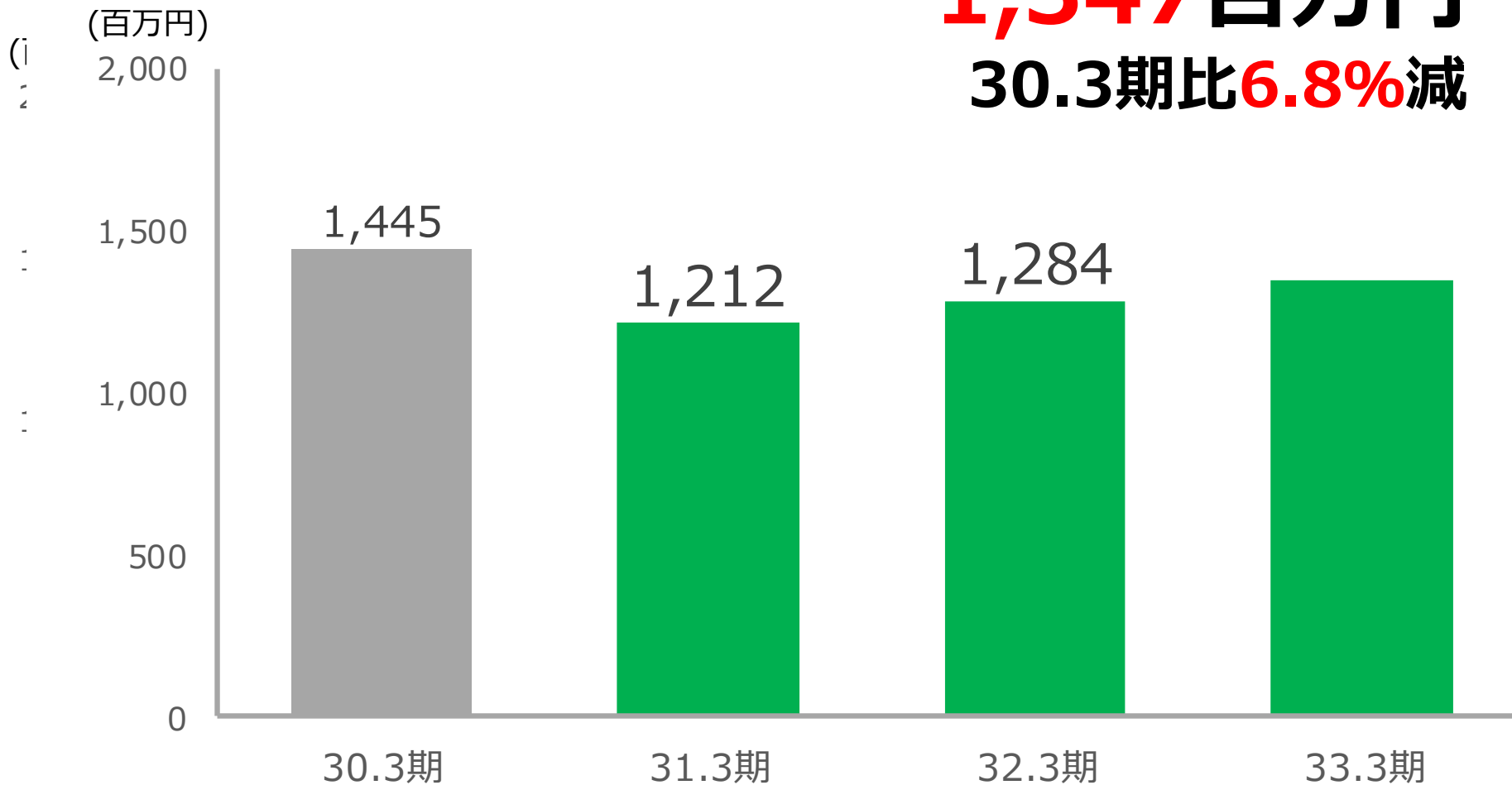


※ 既存工場側の建屋の大きさ・シャッターなど開口部の大きさは、想定にて表現させて頂きました。

要綱案(仮称)施設計画 本社説明資料170208 2/10

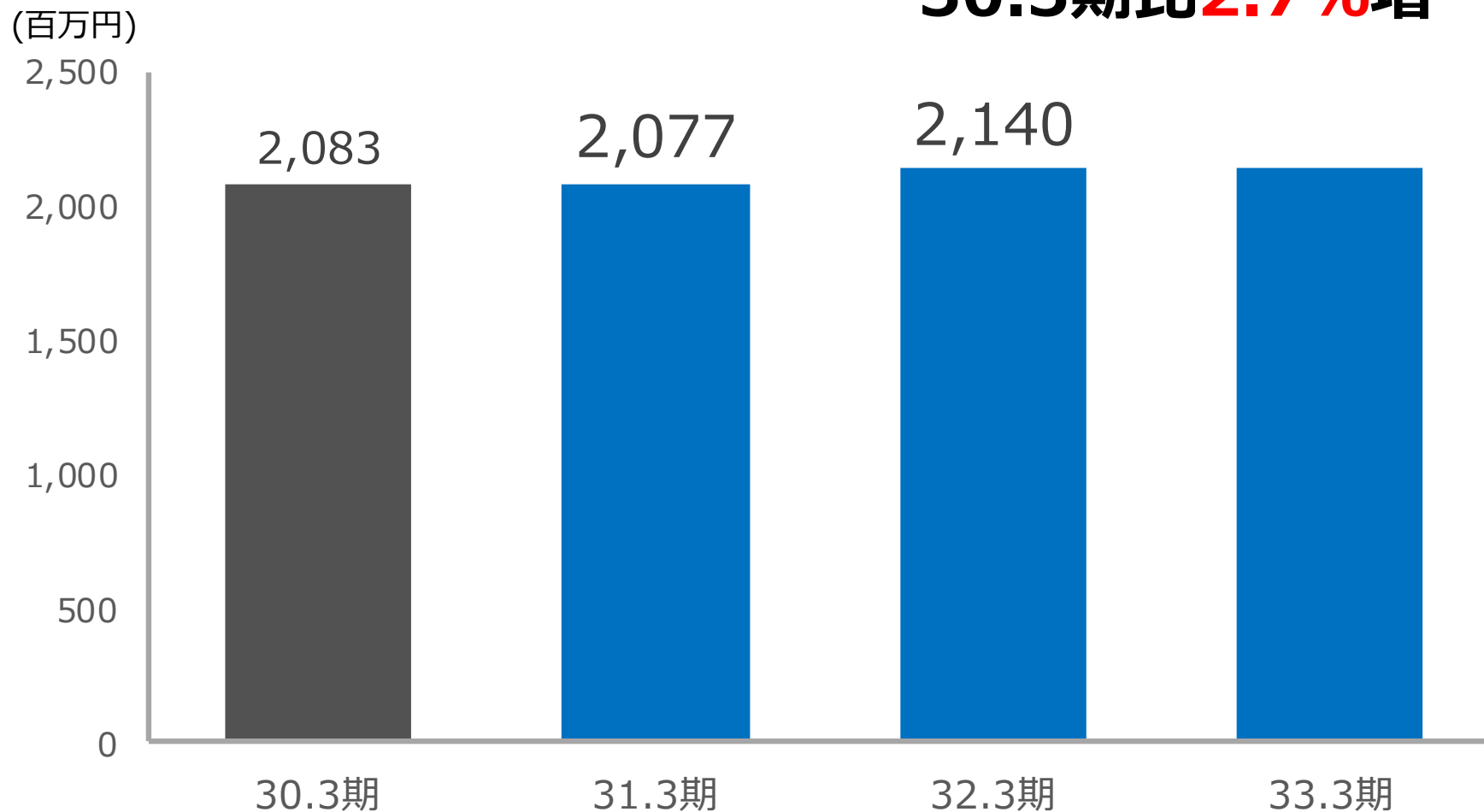
【リサイクル事業】

1,347百万円
30.3期比6.8%減



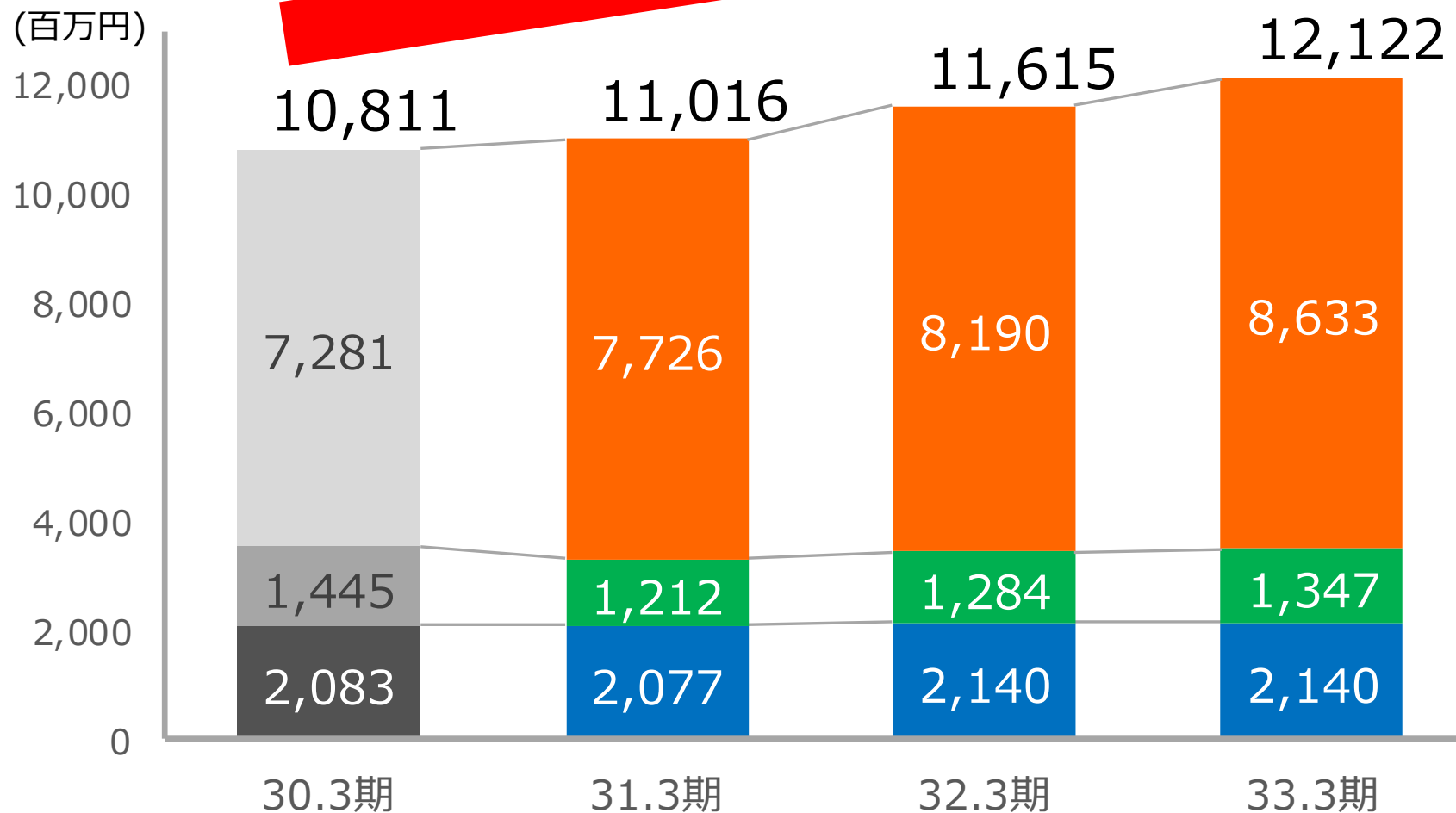
【行政受託事業】

2,140百万円
30.3期比**2.7%**増



【売上高】

12,122百万円
30.3期比**12.1%増**

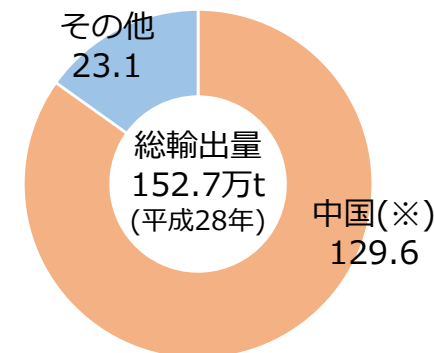


【廃プラスチック類の処理価格の高騰】

平成29年7月 中国が世界貿易機関（WTO）に対して、
「廃プラスチックなどについて一部輸入を禁止する」と通告
平成30年1月～ 全面的に輸入を禁止

- ・ 総輸出量の約85%が輸出停止
- ・ 国内処理施設における処理量が増加

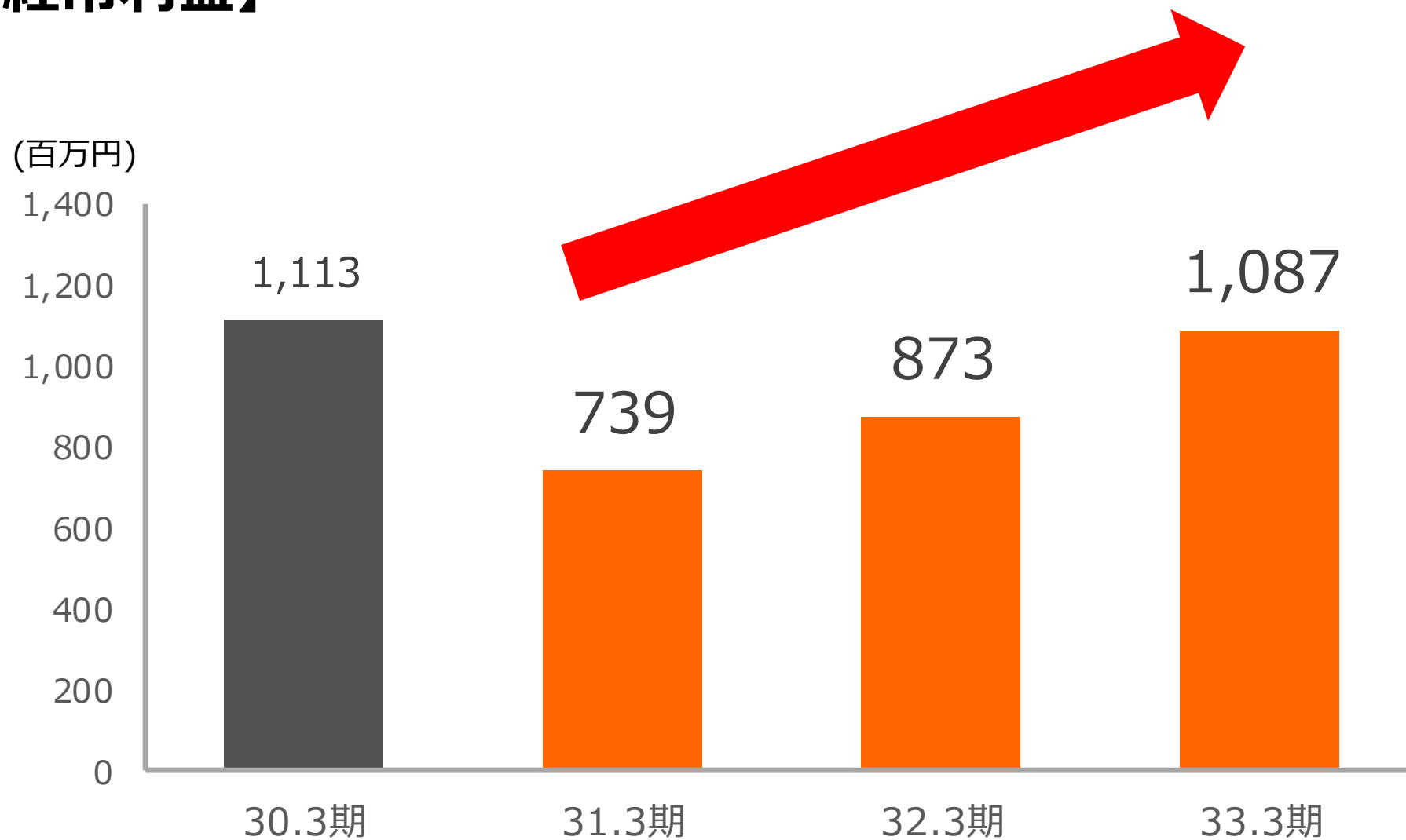
〈日本の廃プラスチック輸出先〉



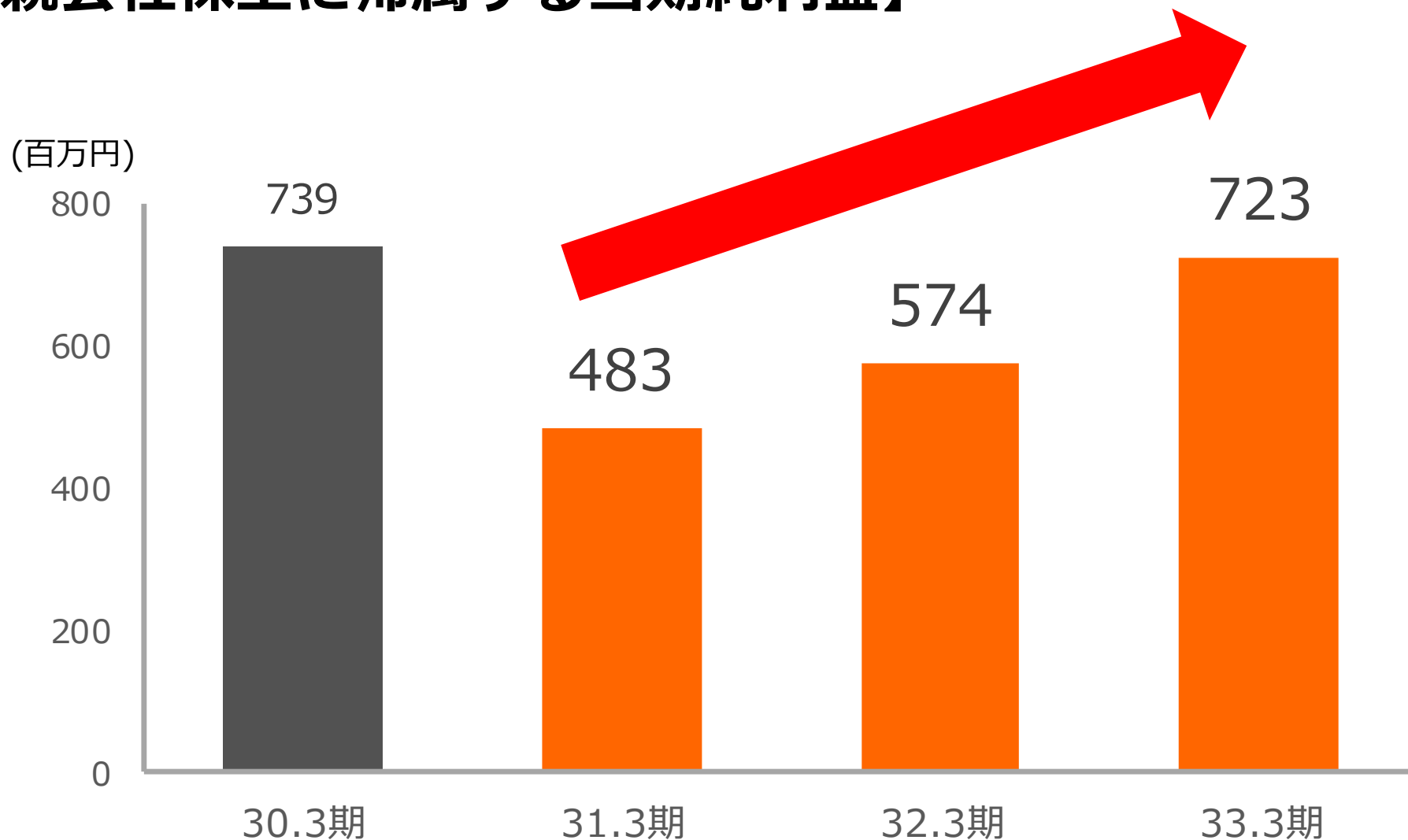
(※)香港経由を含む

廃プラスチック類の処理価格の高騰

【経常利益】

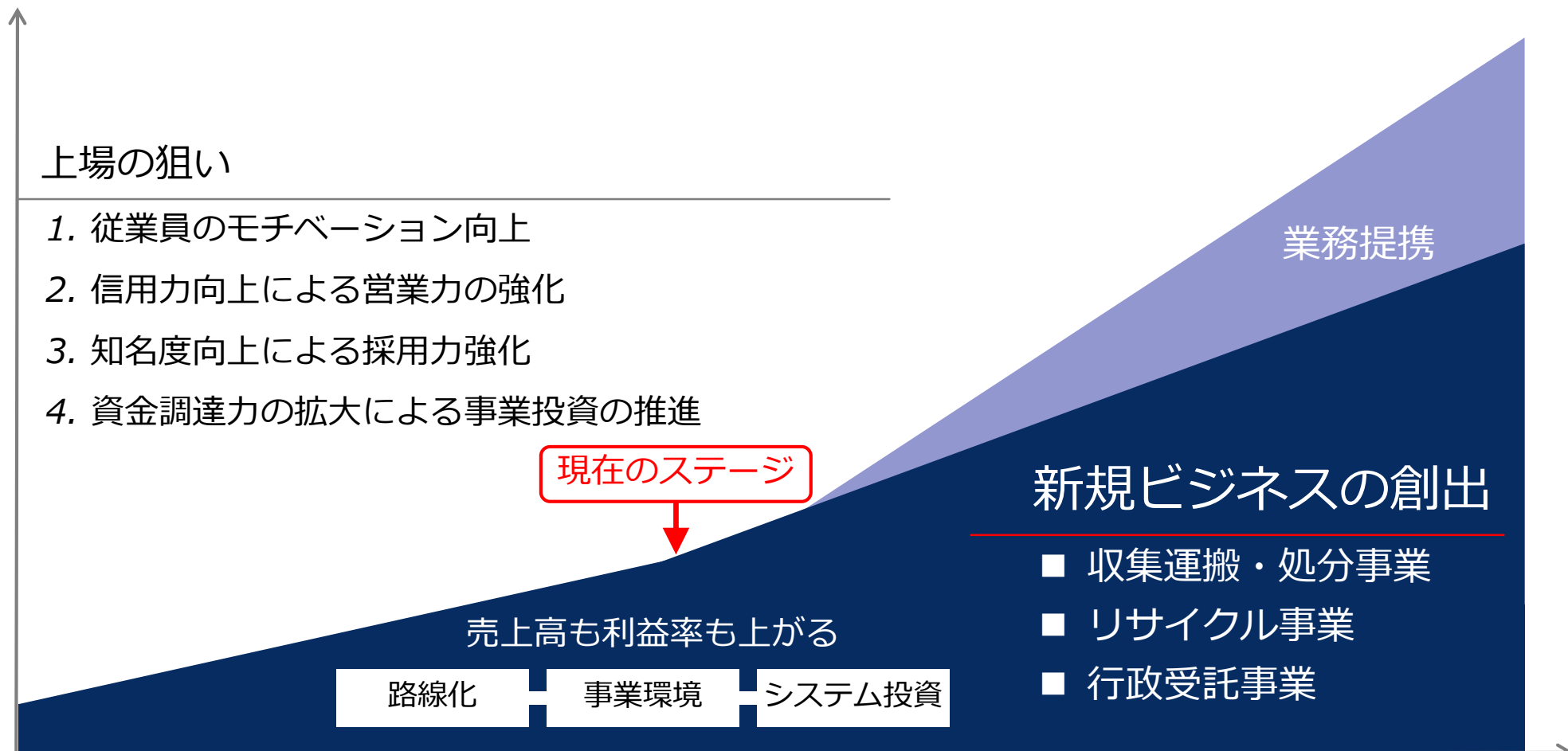


【親会社株主に帰属する当期純利益】



【売上高成長イメージ】 東京23区内で圧倒的No.1を目指す

● 収集運搬・処分事業の更なる拡大





【見通しに関する注意事項】

本説明会および資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は、資料作成時点において当社が入手している情報から判断した仮定・所信に基づく見込みです。経済動向などに関わるリスクや不確実性を含んでいますので、当社がその実現をお約束する趣旨のものではございません。実際の業績は当社の見込みとは異なる可能性のあることをご承知おきください。